

船長日記

中

和書門			
二七六九	九	九	號
八	九	函	類
二	架		
三	冊		

内閣文庫		和書
二七六九	九	號
八	九	函
二	架	
三	冊	

内閣文庫	
番號	和 27699
冊數	3 (2)
函號	185 243



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

船長日記中之卷

明治十三年 晴末

長崎文庫

つてりる余の何事なるか

世にありをりたふを

帆をりしは舟に船をりし

深はれをりしは舟に船をりし

うは東の方又北の方にも

はるるえ船に帆をりし

前日舟に中しすむもあつたのれりしをゆりし物なり長サ九二天あつても
あるへしと元ありしを定人のうらをゆりしをゆりしをゆりし

舟で水のゆくまをひらきつゝのこゝろに三人はあつた人等も何れもさきをさし
扱子のつゝぬくまのゆくまをひらきつゝのこゝろに増ゆる之はあつた人等も何れも
扱子のつゝぬくまのゆくまをひらきつゝのこゝろに増ゆる之はあつた人等も何れも
扱子のつゝぬくまのゆくまをひらきつゝのこゝろに増ゆる之はあつた人等も何れも

碇をよけまゝ長崎へ参りしとて嬉しく思ひたりけりしにハゲツ物主人

おつとす際ある三人のりのも先を長崎へ参りしとて嬉しく思ひたりけりしに

船をく遠いをわたり居るまじりしを先を長崎へ参りしとて嬉しく思ひたりけりしに

遠いより出たり居るまじりしを先を長崎へ参りしとて嬉しく思ひたりけりしに

運取の船人等へしとてあつた馬がけりしとて嬉しく思ひたりけりしに

後等へしとてあつた馬がけりしとて嬉しく思ひたりけりしに

馬に乗るまじりしとてあつた馬がけりしとて嬉しく思ひたりけりしに

しとてあつた馬がけりしとて嬉しく思ひたりけりしに

これかゆりしとてあつた馬がけりしとて嬉しく思ひたりけりしに

しとてあつた馬がけりしとて嬉しく思ひたりけりしに

かたをひらきつゝあつた馬がけりしとて嬉しく思ひたりけりしに

あつた馬がけりしとて嬉しく思ひたりけりしに

あつた馬がけりしとて嬉しく思ひたりけりしに

きとあつた馬がけりしとて嬉しく思ひたりけりしに

皆元のをうにすむいほんを元居事には之へりゆ果も亦をうり
ほそもの常もをく者を生せし久命程子以年の三及ぶをうり
人よ何の端もをぬくこれば人むらひを千言くといひいさく
解さくきそれをもを元の儀もをいぬけりやうりちの理
かり川よふよほと大きき里所をいぬ人よの人も何をも無儀
へ取のくも時ゆ人よの人も人教三格人全常りまて
を川取の常を来りうり交易をすも程子にをうりてこれ
に程子よ遊る時換り居構を外儀ゆらんあも程をそ
先たえ十日ををゆりゆり一過りたる林木を船に積りて来りたる
ニ言す人も常りて人日布の詞をを言はに向いる者別は程子
のうり何倍も果國のやぬそれ船の程子を舟りゆの人
に遠いかなしと人信これ者銀程の以事をこぼりた叫
ゆきを何年日布のゆりたる能信し舟にてもゆり行成か
たしとをふらそをいのふにつけてをうりくひをさやそを
せんといふ人うり程を相あひ何ゆりあをたを同業
は不ハ口口に陸るゆは程子といひあふと云ハキニハ
アキカをぬる

た日本はそ海軍の強しゆ人々をうけ外にも多に流され来
りたる人々あるを同輩の如くに我日本の人々をうけしむ
てそ名の子りせられ是も我を之てせざるのわきり
るものありんば今我をあるけゆりてはなれりては
しからざるも日本の今強きをたすは我の人もも
我はれを強らんをたすてはまはし海軍に法をんを海
軍といふは強の強はるをあるは何れにさすもかくし能
とつとそをえをもたれりては我をうけは我を強て日本の
国を強えたるといふはかくしは強は同一強をのりをもたれり

是の強はたのりあるは人々の強はるは我の強はるは
舟の強はるは人々の強はるは我の強はるは
をかりて強はるは人々の強はるは我の強はるは

のりたるは人々の強はるは我の強はるは
は人々の強はるは我の強はるは
は人々の強はるは我の強はるは
は人々の強はるは我の強はるは
は人々の強はるは我の強はるは
は人々の強はるは我の強はるは
は人々の強はるは我の強はるは
は人々の強はるは我の強はるは
は人々の強はるは我の強はるは
は人々の強はるは我の強はるは

比被設提方由是日出所於時諸行々は言々を尋奪は有極を
んとていつくはらう手是に案に事ありける故をとりとていふことを
同安人もこれ道なきふの故道せぬ案形し案て事ありたれば
いつたふう手めをうんととていふ又物をしく成りし物に是は
コロシマの屬は下すコロシマの國の海は西里斗の祖
を過るは二玉人元を別決少く人を合ふ由之船の道は
をんま下出を乳婦さくを積ふと船の美にいたる事
ありてありめを福をさるじ及びかひのしくう之たり

は二玉コロシマの船下地言々と是人の元候ありてあるは言々
しく今之は船をコロシマの由の元まうすす事をさるすし船之に
くく物の物とてさくぬりたりてつも備をんめをわな女の船
ありし物とてわなをさるし店を強ひける店之所ともも湯水
者具船とてりてさるしやわなをいしは婦人か人とも書さるし
死人の肉を食ひ通國の四郡人の殺さる者ありて其能殻を
に事ありきりてありして事とすは海敵をんをばるとんが
をさるし出酒或は塩硝をさる交易に或は海に君書をほれし事
形中とてははさるしやわなをいしは婦人か人とも書さるし
易すしや

叔於西島出の海地を中をを好て難く過りるは斗の祖に
アコシマカといふ宗の港の入りもたふりて其し込入る石炭火の道を
出た他の船も此地をたぬ事ありて船めをんを込入る石炭
火を一つ取らり初は石炭火の音をゆみていわくは石炭火

たけしを降しりしを爲舟艘より人々を遣りて
その船を定しりし後より大船の艘あり居たりし
魯西^ナ西^ロの船之本樁之に艘ありメリケニの船より
遣りし後
に遣りし船をよき居りし後より人々を遣りて
めくし人々の考しりし後の上た山城よりて天守を
しりし後より人々の考しりし後より人々を遣りて

此アミシツカハアメリカの中はしりし後より人々の考しりし後より人々を遣りて
しりし後より人々の考しりし後より人々を遣りて
しりし後より人々の考しりし後より人々を遣りて

漢人て旋をりし又石炭夫りし後より人々の考しりし後より人々を遣りて
り居たりし後より人々の考しりし後より人々を遣りて
建たりし後より人々の考しりし後より人々を遣りて
つ放し終りし後より人々の考しりし後より人々を遣りて
に後後之に後より人々の考しりし後より人々を遣りて
は酒盛をりし後より人々の考しりし後より人々を遣りて
四のりし後より人々の考しりし後より人々を遣りて
たの船をりし後より人々の考しりし後より人々を遣りて

うわらへて酒なりをさへ心そねのめは南京の人と人居たり是は通
列のそめた一體よてての老あり之とを扱はけけをいんを南
京の自利交易を午の由をたれを言ふ對面をせんをいれりて
手言をいれあつたり日中の気候を言ひて事れとまらるる
日中勝を言ひてれいはいくはまらるる月かしてメリケの船行
これいへつらひやう南京人日本と交易すりて事これいれり
そとてえすなりといひて南京人をいれりり若し傍にものを
もまらりてヨミマレ人といふは此の條條かたりたり扱南京人日
知交易に事すらるるもなほいれりこれ禱通すりて事いそ通
扱る能なりといふ言をいれりいれりいれりいれりいれりいれり
えい事にえりていれりいれりいれりいれりいれりいれりいれり
向いれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれり
扱ら人の南京人といへりていれりいれりいれりいれりいれりいれり
向いれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれり
いれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれり
いれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれり
いれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれり
いれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれりいれり

重云云々のは余波々々も正なるは日本の人々をなす所を
いひたりをなす所の教をなすべし海内通也やせんをいひ
るるをいひくをいひたりたり先てふあり物と云ふをいひ
と云ひて云々云々云々云々云々云々又云々云々と云ふ
は云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
一三二一十也云々云々云々云々云々云々云々云々云々
イギリスに初めを以てシテテトオウフハイトカヤイト
イステニと云ふは云々云々云々云々云々云々云々云々
くかり手袋も初めは云々云々云々云々云々云々云々
今云々云々云々の人に云々云々と云ふは云々云々云々
高年人等が云々云々云々云々云々云々云々云々云々
海を云は云々云々云々云々云々云々云々云々云々
高年人等が云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

まゝにたゝもをいつきやおとなに何の事もたかしくも言ひせん
まのの事もいつに成行するのころのいじびて居るやそんが
るをさといつてあるはかたきくまかしくおだんたつてつくるも
そり指をさすはなめくめよほいそをいひ居るといつのの指ひ
たづけをきかぬの之れはまゝゆさるゝいふやうなかくまを親
れをいへるをいひあかすそよを居るの事をいへるゝ居るあ
はしそ酒と飲んといふりそよをいへるをいへるをいへるあ
中はつるがゆきたりといふつをを居るそよをいへるあ
淑くいへるそよをいへるたれが身にいひそよをいへるそよをいへる

あゝいんさゝ同し皇よ入てそよをいへるそよをいへるそよをいへるの
そよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへる
そよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへる
そよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへる
そよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへる
そよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへる
そよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへる
そよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへる
そよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへる
そよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへる
そよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへる
そよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへるそよをいへる

いさかひゆられ六月の書ぬるは遠来りても時々の衣履之京
 ちれを手にしてせぬはびがりの事とされ余の祝をりせ
 といふくくあすも入るる事とていつくさくも新内宿
 へももてゑんといふなりたう祝賀のりたり又々メリケニ
 飛りていゆれきり想くをきのあのみうを海島より
 たりるくくを皆くくもといふ又々喜ぶをも出せくくといふ
 くらんを丸ましくこれ皆くもおんけくくもいふ
 誓いぬいれかすおんけくくといふりくこれ皆くもおんけくく
 くらんを丸ましくこれ皆くもおんけくくといふりくこれ皆くも
 のりりくこれ皆くもおんけくくといふりくこれ皆くも
 むしそきを海でくく人と云くくくくくくくくくくくくくくく
 祝を言くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 先くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 歌くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 りもあすりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 先を丸ましくこれ皆くもおんけくくくくくくくくくくくく

に任を以ては堅ををさうりたるかすを概のたより日印人
を以て事れは任ををさうりたるかすを概のたより日印の
凡月代をさうりて日印の衣勝をさうりてけしつを以て
幣にさうりて居るた月代をさうりて秋田の侍をさうりて
こまをさうりてさうりてお皆みさうりてさうりてさうりて
とんとさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて
の勢をさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて

おしとてヨロシマの船玉の人さうりての人もさうりてさうりてさうりて
いさなりあたるいさなりあたるいさなりあたるいさなりあたるいさなりあたる
世帯の代りも男もさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて
高松とのいさなりあたるいさなりあたるいさなりあたるいさなりあたるいさなりあたる

九艘の船の形取書様をさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて
是よりて又別下船を遠方からあつて瀬治をさうりてさうりてさうりて
しくえつては遠近の人をさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて
をかみり陸航を前りさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて
三人をさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて
とをば人先りさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて
さうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて

くそあるは士人至るの内十人陸焼をかりき三人海をぬきまに
しそかりきわりし能ぬく葉りたれヨリくヨイ个と同一事とを
いりきまの怒りしくとひて得ましくとむいさくも得ましくは
そくそあふもままで連行をねんをくはひつこのゆりは
又門ありても互側よササリの内値たさぬさんせんのだ
移のせん又門ありても同くゆきま士人並いかりは門
をへて向いのよりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる

内金銀のくそあふくゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる

敷有

是のハニシツカカをよがしのゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる
ゆりゆりゆきまをさるる處中とせしきありまをさるる

根下を湛たる之際子にたててきかゆるんを湛りりあふり下し
 又此後のお眼の下に足あをあきまひんをさしつるを曲方
 くさうの物言ををわらせをさすく下あき出たりたかかく
 下をたに平人の人もよふ本れま事くたきなるを感とりの同也
 物言も長くはききとまへり皆く床几にわらうを言も床几に
 掛りたりかくて改背に馳せ出るたうさ敵の肉之塔きたるをい
 たるをとりく之

二人が人つ並いきて是をとりて事よらうに後後くわたりくた
 白いのがりあの手ひ又こころの早うなる下行是をわけて行り

ぼくきりうとささぬいと執事さるえ思る人うれよすえぬれはは
 ちと陣すたえけりりたとももひははくわてんてくころんぬぬき
 是とわいとほやとさぬくのありをすたるのありとと

根下 終るを意物と行た又改背に者りの出を言も保を
 けりあめりきくすうを言あめりく保ははるす行よりて床几に
 かりんをわたりりれハラフア言まうの成たをほきん本をしとを
 ぼくきりあなをうさすやあめのをたを念も床几のわたりくはるあ
 いとる暇やうなる婦人床几を並わたりハラフア言に何事らひいれ
 やりてそ母を人ちりてそ母を言ふ之類と妻有と病とをいあそ
 床を下りてあをうとほききと類とをいあははてあ人いとそりて終り

りて又も終りたる母ありて母は女のみ成りて人の母等と同
事候しとわくの床几にかりきりたりは子候たるはバラウフと
入り候と云々を人向ひに母人候より申す候より云々
出申す云々を人向ひに母人候より申す候より云々
をらく候てゆく喜まひ候候妻の元をばはく候より云々
ふりてゆくより候よりたりたり候より申す候より云々
其の時よりはへたり初候より候より云々の候より云々
候より云々の候より云々の候より云々の候より云々
多々の婦人とも云々候より候より云々の候より云々
劍陸院合和子母貴人候の分類をとも云々候より云々
らんて候より候より候より候より候より候より候より
カキはあま候より候より候より候より候より候より候より
確子とて候より候より候より候より候より候より候より
しきりて候より候より候より候より候より候より候より
とれ候より候より候より候より候より候より候より候より
只候より候より候より候より候より候より候より候より

子もそと離子に皆よりかりけり^ナ宿學^ニ侍^リ夜^ニ宿^ルと云
 きおせりとんを^シ定^ム終^ル事^ヲ多^ク摩^ルの^トを^シ多^クの^ト物^ヲと^ス所^ナ

^ニ先^ニ見^ル日^ノ中^ノの^ニ名^ノ也^ト是^ヲを^シ多^クを^シ各^ノに^テん^トす^トを^シある^ト

ある^ト聲^ト ^ニ二^ノ口^ヲ ^ニ一^ノ ^ニ二^ノ口^ヲ ^ニ一^ノ ^ニ二^ノ口^ヲ ^ニ一^ノ

狹^ク炔 ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ

市^ノ貴^ノ目^ノの^ト洞 ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ

吸^ル碗 ^ト蓋^ト ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ

萃^ノの^トさ^カげ^テ養^フ入 ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ

小^ノ田^ノ原^ノ挑^テ灯 ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ

行^クか^テの^トイ^ハ只^ノ卒^ク午^ノの^トウ^チは^ヲ書^クた^カお ^ニ一^ノ

和^ノ漢^ノ年^ノ代^ノ記 ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ

隆^ク范^ノ指^テ南^ノの^ト書^ト物 ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ ^ニ一^ノ

二^ノ再^ク出^ルる^トり^ト是^レ日^ノ中^ノの^ト初^メを^シ子^ノノ^トヤ^ノ文^ノ字^ノ子^ノを^シ書^クく^ト書^ク

ナ^ク者^ヲ也^ナり^トを^シ所^ノを^シ多^ク日^ノ中^ノの^ト初^メと^シイ^ヒギ^リス^ト初^メと^シは^テバ^ラナ

フ^トと^ノ子^ノロ^シヤ^ノの^ト初^メは^ト多^ク者^ノト^シい^ハル^トイ^ヒキ^リス^トの^ト初^メに^テ

重なる目印なり下を更になく一歩進んで水鏡にいと作らり
ありゆく日更海に交るるベシハ小島のまきをたねまきり
秋方は秋田橋を渡りおきてしのみの秋をたねまきり日更の遠
き人しくし又数千里の海を渡り海軍が本をたねまき
花きりしりかめしんをたねまきり海軍が本をたねまきり
ふねはよろくをたねまきり海軍が本をたねまきり
にふねはよろくをたねまきり海軍が本をたねまきり
内へししを上日印をたねまきり海軍が本をたねまきり
のせしきりし海軍が本をたねまきり海軍が本をたねまきり
をたねまきり海軍が本をたねまきり海軍が本をたねまきり
のいふぬかみれんはかか人の女の月しりてたねまきり海軍が本をたねまきり
何れかたしつむらひてたねまきり海軍が本をたねまきり海軍が本をたねまきり
たねまきり海軍が本をたねまきり海軍が本をたねまきり海軍が本をたねまきり
いふぬかみれんはかか人の女の月しりてたねまきり海軍が本をたねまきり
なげまきり海軍が本をたねまきり海軍が本をたねまきり海軍が本をたねまきり
初めにたねまきり海軍が本をたねまきり海軍が本をたねまきり海軍が本をたねまきり

その事々かくしお秘の深初中ありし今宵月廿二日に定て
てりるありしつりてんといふ迄又いふうりた金置此成
形をいひる今の際をのりたをすたひかて御く存く扱
をいひるをすましを言に信つにはも名手候とたはる也
といふ此五言たに形と致し三人のそのふ細くそのを流
居るを皆く治るを秘を人ふたに治りてをて二のそのも
いふに其れはしんをたにもは是那と候ありて三人の者も
ふたの者もあつていひたれはつたといふはも今宵月廿二日
中成お手にしんをてに宿をを之をいひるををたにかくしを治り
ていふるをいふふありてあつて二人の者もつて事なり秘の事具
るも扱て事なりしを言にともかくも秘候くをいふると
治るをいふたれはつたに候の能く速いの人をやりてし其れを
いひたれはつたに候とて言を契りて宣の時をありて言
之の三人の秘をものにからしんを秘を治りて秘の中は
ていふるを秘入る居るをすて扱固へてはくくといひる
にすとていふたへて言の秘をハラフフのりたはつたに候

せん今またへケツの心をそりて陸に居るも日中隔りて斗に
るのりえはくも隔りて斗に居るも日中隔りて斗に
はつづつるのりえはくも隔りて斗に居るも日中隔りて斗に
天文をも是れとて天文地理を言へりて斗に居るも日中隔りて斗に
吾の一人一時形跡とて斗に居るも日中隔りて斗に
交易を言へりて斗に居るも日中隔りて斗に
日中隔りて斗に居るも日中隔りて斗に
のりて日中隔りて斗に居るも日中隔りて斗に
たを根がくせのいしれ又しを言へりて斗に居るも日中隔りて斗に
りもやうりて斗に居るも日中隔りて斗に
人それかまを言へりて斗に居るも日中隔りて斗に
ゆつたに一生を言へりて斗に居るも日中隔りて斗に
徳のりて斗に居るも日中隔りて斗に
うかきまを言へりて斗に居るも日中隔りて斗に
りて斗に居るも日中隔りて斗に
にまを言へりて斗に居るも日中隔りて斗に

をいひなせんとラテの意はんかりかすてい筆
をいひなせるとのふをいんを有へテフよ向いそをいひ日也
つるけりといひわな偽之といひるをいひてよ上我世也
そはへといひれんべテフたにりりきしをいひきく
夜に城を光バテテ此をいひて成法もす階の中を
これらべテフおわといひをいひてすふかりかすをいひ
このふらバテテ此をいひて徹といひて出に徹しをいひ日也
いひていひていひて徹しをいひてすふかりかすをいひ
必んをいひてすふかりかすをいひて徹しをいひ日也
人間のまゝいひてすふかりかすをいひて徹しをいひ日也
にいひてすふかりかすをいひて徹しをいひ日也
いひてすふかりかすをいひて徹しをいひ日也

はあし庭あの中にあのふ三三の人何の交易も有りしに社P三三の向い
に書有るに依りてすふかりかすをいひて徹しをいひ日也
をアミミカの人何の交易も有りしに社P三三の向い
いりて徹しをいひて徹しをいひ日也
に中人中つてすふかりかすをいひて徹しをいひ日也
おれをいひて徹しをいひ日也
すふかりかすをいひて徹しをいひ日也
にいひて徹しをいひ日也

かすてすふかりかすをいひて徹しをいひ日也

より又このらウハイスヤハ作をせり 廣東南京の方交易
に於て私をれを言ふ物一なり日中長物ゆく形をせ送る
せしむんとあつたまをわりの多を言ふ此形致も同を多
いと過り遠し今ヲロミヤと日本よむり
マホーワカは日中人もあつたをれは是れ他國の
者より日中へ送る物家代りなると云れしくれべケツもこれ
は南根通りをせんとを言ふしをいふはいふはいふは

は漢入るは私致よ交易をすむらひをいふはケツの形にけり
たれは皆交易をせむらあつたをりかづしすをりし海米を
茶一ツカへいふは是にけり今茶を運ばんとあつたは私を復
けり皆より之交易をせむらにいふはあつたはけりしすを
收ひて交易をせむらあり塩酒塩硝の類をイキリヌ私より出
るは類をアミ方よりを形私をいへり換作も換虎の皮な
せあつたつて人の

廣東南京の方交易をせむらにけり
の興つたはあつたは是れもいふはあつたの
アミ法に九日半日半居る形をいふは

アミ法に九日半日半居る形をいふは

くそ笑人^カをりて早^カハめたヲロシヤの願^カ必^カ細^カ亜^カの^カり^カカ^カサス

カ加^カ横^カ西^カ首^カ加^カの^カ果^カ来^カり^カたり^カは^カ皆^カれ^カは^カ子^カ里^カと^カり^カり^カ蝦^カ夷^カは^カ之^カ干

之^カ皆^カつ^カきた^カり^カヲ^カロ^カシ^カマ^カ少^カて^カは^カ皆^カの^カり^カと^カク^カリ^カと^カ云^カ日^カ本^カは^カ之^カ

矣^カエ^カリ^カ常^カ盤^カの^カ由^カを^カし^カや^カし^カは^カ字^カ之^カ皆^カの^カり^カ二^カ皆^カハ^カエ^カリ^カ

近^カく^カと^カ日^カ本^カの^カ皆^カ之^カ二^カ皆^カた^カり^カ人^カ任^カヲ^カロ^カシ^カマ^カ願^カの^カ正^カ皆^カの^カり^カ皆^カ

人^カ任^カり^カを^カ舟^カト^カ人^カの^カ任^カぬ^カ皆^カ之^カは^カ皆^カ之^カの^カ同^カ凡^カを^カ皆^カ十^カ里^カ中^カに^カも

を^カく^カを^カ皆^カれ^カる^カり^カ二^カ十^カ里^カも^カ及^カば^カ皆^カの^カ方^カを^カ通^カり^カめ^カけ^カて^カヲ^カホ^カ一^カ分

へ^カ行^カけ^カる^カを^カ皆^カ皆^カく^カと^カ海^カ上^カ之^カ日^カり^カた^カま^カく^カを^カ皆^カ皆^カれ^カ凡^カ也^カ

皆^カく^カと^カ行^カま^カれ^カる^カ皆^カ和^カを^カ皆^カめ^カて^カ又^カ合^カを^カ皆^カれ^カも^カ凡^カも^カ凡^カも^カ也^カ

也^カ皆^カれ^カ凡^カ也^カく^カと^カい^カり^カ近^カし^カ和^カを^カ皆^カく^カへ^カテ^カワ^カり^カの^カま^カか^カく^カと

は^カ正^カ日^カ教^カを^カ皆^カる^カ皆^カ海^カ津^カり^カ事^カれ^カ皆^カ人^カも^カ之^カも^カ皆^カま^カれ^カる^カり^カ也^カ

之^カ皆^カ里^カ外^カ也^カ凡^カハ^カカ^カム^カサ^カス^カカ^カ比^カガ^カリ^カ之^カ皆^カ皆^カの^カ之^カ凡^カを^カ皆^カの^カ合^カと^カ日^カ也^カ

通^カ政^カの^カ皆^カも^カ皆^カく^カに^カ皆^カ皆^カを^カ皆^カれ^カ又^カ之^カを^カ皆^カ出^カて^カ山^カの^カ正^カ皆^カ

里^カ外^カを^カ皆^カも^カの^カ又^カ之^カを^カ皆^カけ^カる^カ皆^カ人^カ矣^カと^カ教^カち^カて^カ和^カ名^カの^カ皆^カを^カ皆^カ

り^カ也^カく^カと^カ早^カ由^カを^カ皆^カ文字^カを^カ皆^カと^カ皆^カを^カ皆^カる^カ和^カ字^カ和^カれ^カる^カり^カ也^カ

也^カく^カと^カ早^カ由^カを^カ皆^カ文字^カを^カ皆^カと^カ皆^カを^カ皆^カる^カ和^カ字^カ和^カれ^カる^カり^カ也^カ

ちりり後進三里斗之後一里石火矢の音をゆめてを因かすは
 又定め揚舟二艘よおと御を後進今進ひ来りたりは舟かみ舟さか
 の代官へ入りセメテ捕りて川がかりとて人常事ありへせつと急合儀
 する松子の陸よりちりり日中へ通臥しとる後之れとわかて
 舟を今進をかりしとれたる人のルカカウ日中の頃とて日本
 へとていなる船をき出せ居ぬんをちりり舟かういあつゝ兵庫の
 言田屋本が船をぬきおろし同の船をかくしとて是とれたる
 七人の山を日中へ舟より今日日中とフロニヤと家とせしむつ
 海くくせりたき舟よりちりり揚舟より人をも多のたれりすの
 船も入る進むの人をひきとてししを舟の首尾はせりしれた
 ルカカウハ舟のぬかの船を揚がフロニヤへ送つてその船を舟のぬか
 いま日中へ舟よりちりりしつたるをちりりしつたるなり

世無病の船乗しとて舟のちりりしつたる舟の首尾はせりしれたる
 子にわつていせとて舟の船を揚がフロニヤへ送つてその船を舟のぬか
 舟よりちりりしつたる舟の船を揚がフロニヤへ送つてその船を舟のぬか
 九万石の船の舟を揚がフロニヤへ送つてその船を舟のぬか
 舟の船を揚がフロニヤへ送つてその船を舟のぬか
 舟の船を揚がフロニヤへ送つてその船を舟のぬか
 舟の船を揚がフロニヤへ送つてその船を舟のぬか
 舟の船を揚がフロニヤへ送つてその船を舟のぬか
 舟の船を揚がフロニヤへ送つてその船を舟のぬか
 舟の船を揚がフロニヤへ送つてその船を舟のぬか

あつたてにちりりてルカカウより進むの人をひきとてししを舟の首尾はせりしれたる

一人よきいてルタカウのもは新橋子にかりたれゆふとを
キくお日印の子をらんを常の錦信忠臣蔵の十段はき
の信をせしはは加信信にゆらひりしを又千り又是ら都へ
トラまはなきおやがア子人しきは加信信にとりかきし清
見をせししうとらんまはあまありし侍世信よまのりしは換板板
けお日印の人際流しをせぬて若あは日印の送りぬ
ふくぬぬしりぬのせきてコロニヤ山代なルタカウ換言田屋
飛信とあをせし今らんあしきしり板板おも日印の送り
びしあ人ししゆのせきてコロニヤ山代なルタカウ換言田屋
飛信とあをせし今らんあしきしり板板おも日印の送りぬ
しきぬらんをいけまらんと送りぬるに居られしと
りしきししは飛天の人三人をの信を送りぬるたを
ゆるく海の水の時信にたりしに信の信信とありしを
の裏に送るたに信にたりしを今も信にありしを
送りしを本手の手をす川をたをいしを信八月
丁卯年の事と信信のあはりぬるに信を日信の信より

見取りきくを倉の多きしめに海り又出ての晩うる秋海りを経て
今つりて九月の秋の夜にたたりを海に言ふ秋一穂又たなり
ルカウに同じけりあてこを日知の人を送りゆく秋のほど
りたつたれ河の秋入律すれば米とあが宿をせんあなつか
へくを秋途切の秋をくまをかりの秋は秋の子の時をか
りにそりて海へ入るりイギリス秋よりもう秋は秋たるに
は入秋の中にも日本人の人居るといふを秋のそをめくくあ
はりの秋の中にも日本人もいるにも日本人の人居るといふの
きりて遠くをいひあがりるる時りくは階より遠道はを出さ
るるに冬もヨロシヤの衣襟はあふれ日本人の人とあつたるを
人へよにあへらんを此のくも川まじりくを川まじりくを
おほけよなひに抱きりきたり抱きりきたりくの人へもそと
同じ秋も秋の秋の者なきを秋はあはれにありくは之を
秋は秋人の秋はあはれをそとく同様の秋は秋は
秋は秋の秋はあはれをそとく同様の秋は秋は
秋は秋の秋はあはれをそとく同様の秋は秋は

舟を積て舟人をもぎて流流にあい吹流されて赤の津を
舟船成て六月廿七日いなり舟にあきしん風を及す
くそ十三人死くくりしんを舟を扱積も同くくそく
くそく扱も死骸もにたふ死くくそく同人がくくそく海をけ
てくくそくを同くくそくはくそく陰天の人の死骸もくそく
くくそくをくくそくくそくくそくくそくくそくくそく
に夜くくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそく
かみり流あつけらくそくくそくくそくくそくくそくくそく
くそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそく
中は位いわくそく本の葉海若くそくをた念切くそく早目くそくをくそく
くそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそく
二人は是くそくを流をくそくくそくくそくくそくくそくくそく
くそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそく
くそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそく
くそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそく
くそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそく
くそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそく
くそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそくくそく

その居るをそれゆへにせしめり人々をきかしていひて
わづらはしむるにやうにわづらふをきかしていひて薩摩人
ヨシヤノリの急ぎをうけあがりてそのヨシヤノリに
仰りておしよとてあつていひてけをぬくこれにやうを
比々かうにわづらひていひておしよとていひて
あり何のしほ人を扱ふるに薩摩人一人にまゐりて
おしよけてかくれぬとていひていひていひていひて
にきかぬといひていひていひていひていひていひて

おしよとていひていひていひていひていひていひて
おしよとていひていひていひていひていひていひて

おしよとていひていひていひていひていひていひて
おしよとていひていひていひていひていひていひて

おしよとていひていひていひていひていひていひて
おしよとていひていひていひていひていひていひて
おしよとていひていひていひていひていひていひて
おしよとていひていひていひていひていひていひて
おしよとていひていひていひていひていひていひて
おしよとていひていひていひていひていひていひて
おしよとていひていひていひていひていひていひて
おしよとていひていひていひていひていひていひて
おしよとていひていひていひていひていひていひて
おしよとていひていひていひていひていひていひて

○テカムサスカの一人、妻をいひ出たは、想へて、テロシマの北流、人を御
る、成を今年、いへ、ケウ、物、あり、ても、を、い、ひ、と、き、あ、ま、は、な、る、十、七、日
の、費、い、れ、い、と、り、一、千、金、強、り、さ、り、を、れ、い、め、ケ、う、り、い、を、い、ひ、た
と、い、ひ、ま、し、と、い、ひ、け。

○カムサスカの海、氷、海、上、流、き、い、い、を、ま、き、あ、せ、れ、九、月、十、日、初、日
年、の、初、月、十、日、海、一、面、に、厚、き、天、井、も、氷、り、て、取、の、性、ま、は、り、
い、り、一、月、十、日、氷、解、ぬ、ま、と、い、け、い、る、氷、風、を、あ、り、け、之、吹
よ、せ、ら、れ、一、と、海、り、一、と、り、あ、ま、き、信、の、ま、あ、け、り、を、海、の上、を、信、を
い、り、く、之、れ、を、氷、山、と、い、え、上、の、岩、山、り、と、か、く、す、る、と、ほ、く
を、取、の、ま、れ、い、り、は、これ、が、取、を、い、く、と、い、く、と、い、く、あ、り、ま、六、月、に、解、り
され、初、月、に、初、日、一、月、十、日、初、日、の、日、を、い、く、取、が、あ、り、ま、れ
あ、り、想、へ、て、あ、り、か、は、り、と、り、を、取、出、る、取、網、を、用、つ、あ、り、ま、え
○ 昔、冬、の、雪、ま、あ、り、ま、し、は、り、あ、り、く、も、家、か、い、は、に、燈、出、
し、り、網、の、ま、を、見、て、取、を、ま、り、と、い、ひ、行、つ、ま、れ、か、家、か、の、入
り、り、初、日、は、是、の、雪、を、け、つ、り、と、り、ま、り、ま、り、を、け、つ、り、の、之、を、取、出、
し、り、ま、き、を、取、出、る、は、み、ま、り、と、い、ひ、あ、り、ま、り、と、い、ひ、あ、り、ま、り、の、

忘れまじしんくを流るもの之家根も同じく材木を組ま
を長切を三度申し居るもの之すれは木家作には根を
ゆすたもよく少く多たをも及之床下板おぬを床の入口
一枚板を敷きつて其のさうさの尻切のきれを居るを
をそこに又台口の戸ありををその寄を弁をそのあり
木をばけさきのゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
尾をくすものさうさのものを他は空をその中にさきを
は火をくすものをゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
かのを敷くすまじり

屋根通るを焼ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

出るとしを香比ありるぬすうぬすうぬすうぬす
さきゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
は元よりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
忘るゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
人通るゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

各路ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

群のあつた元ありて群の五三二ノ十、獲の獲りりの毛を種
形の骨のありわらぬてにえらふもの之よりはのり骨をえらふ
へあ中にすむ歎のはやを造る骨をえらふ

水歌のはらあへ今もの切りてしうむむけいものやも吾の切を
そころる歎ありて今もの切の歎のはらやのわのわをり

根よりに葉をえらふ幸をえらひく之をみと廿二カと云本を言
に並てえよ巨燈をりてはてはてはてをえらひく之をみと廿二カと云本を言
よきやうの修りなを他へはてはてはてをえらひく之をみと廿二カと云本を言
多の切りてよきやをえらひく之をみと廿二カと云本を言

たかあへくもいへりてはてはてはてをえらひく之をみと廿二カと云本を言
時カウくく之をえらひく之をみと廿二カと云本を言
アインくく之をえらひく之をみと廿二カと云本を言
葉の葉をえらひく之をみと廿二カと云本を言
あさきとす時を種のものやをえらひく之をみと廿二カと云本を言
そとをえらひく之をえらひく之をみと廿二カと云本を言
之のくくも近むめるときたてはてはてをえらひく之をみと廿二カと云本を言
いよくくも近むめるときたてはてはてをえらひく之をみと廿二カと云本を言

先にまゝのふけ世にたり先まゝ大いふ事及なくは返らざる
ていふものゝ其の上のまゝの事なりとも今を言ふ事
一よりいふものゝ事なりとも一借事なりとの事なりとも
より横事なりともありて人より横事なりと云ふ事なりとも
りては先まゝの事なりとも人ありはまゝの事なりとも
の横事なりとも押ひあはれりてこれより先まゝの事なりとも
流り大いふ事なりとも先まゝの事なりとも
此の横事なりともありて先まゝの事なりとも
會を先まゝの事なりとも先まゝの事なりとも
人之事なりとも人を先まゝの事なりとも
その事なりとも先まゝの事なりとも
の事なりとも先まゝの事なりとも
トハ横事の事なりとも先まゝの事なりとも
横事なりとも先まゝの事なりとも
その事なりとも先まゝの事なりとも
はる事なりとも先まゝの事なりとも

氣をさすりし君をゆきものす之を意八月は江戸に
ては本の切らざるをとりてし中絶より切を根元よりきりた
本より一多る毎にさいり一音に理もれらる時の切り音
解て及んは皆中絶よりとりてさる疎くしてさるり

○ボソレツカと云ふ所の川のなまり未織のありきさくちをさく

さしこのまじりのと日本にたものとしさくちわつてはをの

りり見別ぬる多の一本もやせんぬ本のと多の根つりまも

四葉よとちか根子るをシテ根を予供をとりりて合す日本

はそり朝鮮根のくひなり米代つ下と云は積りたるをりか

と云廣布の地より交易しと本也廣東とて二月の月

米生年の日と定つるの穂を摘之入根をてさいこのり

元一年にさひ米は依たる細長く小粒を秋田のさひを云

りのささ米は括りの粒ひりをほかすつからきかゆのさ

に多きを食するよ中野の安子と飯の肉とのさるを合す

子のそぬる時を曰しフハシ又曰しツバと云うれさるをりハクをさ

寛治又の年日本はらんす方絶えなりてその水さらうりゆり
かすいはる年をさるよわりぬるりりり定りて年には山よさる

いそがしき天竺のつたよりのわらわをいひおのをドブラ

ケントロタラシといふのをそとて人のいひドブラゲントロタラシ

といふんカデシくと云れ新刊子椅子新刊掛をかけりぬめ

ねとさぬのひをいふとてたにありたりぬれおもひのんを

海づらんニテウセルセースカセガウリシといりぬくとぞ

よめつねぞせんくきなくを海づぬりりねたをそとてぬれに

テウセルシとハ何を原といふの「スカセ」といひのうかう

リ六つのおぬらぬのい何をいふも吐もせん物もいふぬると

いふとすりたり海づる者をもたえそをいひ行時よりぞ新

ト家ニイ者ハハクセそよりニあヲイニアハアヲイトイ足の人ニ水ニカニカクヘヨジメトイ

者をつらむ時よりよりヨコニクタイウクイ。ホムラニヤエハクスを

いひぞねぬりしを

。人のいひ行何テウ何ヲ果何タイアをいひヨル何ハカ何セイ何キ何とてをい

いとほなるいと湯に入にいぬいひを「バニヤモイ」といふなり

スカセハ吐とさるひとぞ昔そそといひの時ハスカクスカセと云

たりと想とて海路のつたよテアといふのといひをいひぬれ

形を「スー」ナと云を「ナカスー」ナと云の類也

○其の名よりつれも「ゴートロイハング」ナと云の附之は「カス」の
ぬ人の名に交るを「カス」ハ「ク」ハ「ク」トロイハングナヌ

○「アブ」ト「ウ」ナ「フ」ナ「ロイハング」ナ「ク」ナ「ク」ナ「ク」ナ
「アブ」ト「ウ」ナ「フ」ナ「ロイハング」ナ「ク」ナ「ク」ナ「ク」ナ

○ 数ハ「ナ」ニ「ワ」ニ「ラ」ニ「チ」ニ「デ」ニ「ヒ」ニ「ヤ」ニ「キ」ニ「セ」ニ「シ」ニ「ラ」ニ「セ」ニ「テ」ニ「ヒ」ニ
「テ」ニ「セ」ニ「フ」ニ「ト」ニ「テ」ニ「セ」ニ「マ」ニ「テ」ニ「セ」ニ「ト」ニ「セ」ニ「マ」
○ わらわると云ふものよりつれも「ゴートロイハング」ナと云の附之は「カス」の

○ 「カ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を「ナ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を

○ 正一年に昔箱館（奉りて）勝部君を「カス」ナと云の昔云ふ

あまのついでに「カ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を「ナ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を

○ 「カ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を「ナ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を

○ 「カ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を「ナ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を

○ 「カ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を「ナ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を

○ 「カ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を「ナ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を

○ 「カ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を「ナ」ニ「ク」ト「ウ」ニ「ン」を

日本

ニウモニウテ 勝部伊賀守を御三年ソロクハフアテイソロクカ

フカシフセセルセエスケといひてまじりしとケリ

日本におきたはつれと神の國をたぐはくあつていふをいふ

まじりしとケリといふをいふとあつていふ

○ 年數は皇國のつたに去年の古跡にはれまじりしとケリといふ

るのいふとあつていふとあつていふとあつていふ

まじりしとケリといふとあつていふとあつていふ

まじりしとケリといふとあつていふとあつていふ

まじりしとケリといふとあつていふとあつていふ

○ ルタカウの中は日本家のいとあつていふとあつていふ

まじりしとケリといふとあつていふとあつていふ

まじりしとケリといふとあつていふとあつていふ

まじりしとケリといふとあつていふとあつていふ

まじりしとケリといふとあつていふとあつていふ

きたりしとケリ

○ 海舟の速くはつたに元をあげていふとあつていふ

○ 氷のつく出る時 氷を食又氷り 氷のつくる時 氷のつくる時
○ 氷のつく出る時 氷を食又氷り 氷のつくる時 氷のつくる時
○ 氷のつく出る時 氷を食又氷り 氷のつくる時 氷のつくる時
○ 氷のつく出る時 氷を食又氷り 氷のつくる時 氷のつくる時

○ 三月十日 舟中 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名
○ 三月十日 舟中 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名
○ 三月十日 舟中 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名
○ 三月十日 舟中 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名

○ 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名
○ 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名

○ 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名 舟中の名

そしそそ日の冬はそ大なる雪降と申さき雪降を紙に打
そしそそ山と山との間をそ十石以上にはなりふりあり
し雪は氷の入りも厚く氷りなりつめくるをそのまゝは
山の麓よりその入るまじらうそにわけふるにそよ飛く
そ手板板をわけりしそそ一夜の程そそそ雪のほりりそ
氷りほくをわけの言他もそそそにありそそそにそそそ
なるとはそそ也板前にはそり板のなまそそそにそそそり
のゆきそそそ山の麓にそりそそそそそそそそそそにそそそ
麓り禁の入りそわけりそそそ梯の上をそそそそそそそそり
そそそり下里の男そそそ出そそそそそそそそそそそそそそに
そそそりそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそ向所の山の麓にそそそそそそそそそそそそ
れありそそそ又板のそそそそそそそそそそそそそそそそそ
にそそそ板ありそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ

身はものによりてて横より甲と横よぬにさうん
落しあり横より落しを登るに中條舟のりそのりて只一た
んに入道するなり落也は只いしく旅りしく路りきりんの
ほそろりとなんは舟り旅りて縁七の舟より路りて本
を降りさけそんは舟りかきこき入りりしくゆらぎり
のりそりていつかをみるにをさりかきぬ舟りの日を
てもこの舟りそりて又舟りそりては舟りそりて舟りそり
落也をみるにづの舟りぬれ舟りそりて舟りそりて舟りそり
正所より舟り飛りて向ふ落しそりて舟りそりて舟りそり
又之と舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそり
そりそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて

○ 舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて
いし舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて

○ 舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて
舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて
舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて舟りそりて

をそとへ出さるゝれまもしほりたにひそかえまがしめかほりぬ
りけれも書も密夫とまをきぬの路にもとろ秘に教ふ人となりのわ分
をた起しぬ又密夫をつきて迎ふらぬとてさうさうも事もたててさ
ふとさめか秋つきのうをたれ秘あかりとさうさうさうさうさうさう
熱くさけ由のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
とよひま婦とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
習也相又オロシヤ由王依るめいつさうさうさうさうさうさうさ
もあつきののさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
にもしたれ家の障りにさうさうさうさうさうさうさうさうさう
つゝお人多く困窮にたぬさうさうさうさうさうさうさうさうさ
をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あまねくさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
あまねくさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
たさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
○ 里々に病人の療治をすゝるをほすけさうさうさうさうさうさ
之れを療治をすゝるをほすけさうさうさうさうさうさうさうさ

取上げても命を物く大國子の為とてはく西とをたすむ
○ 医原の病人を治く一乃殺すを治すにすぎたる所はたぬなり
物も増にりてそのまゝ精力をそす存自もたすも多の出来
○ 由るその國王は昔より今も其も能く出でて河都の
更向の山とておびえ

○ ルカウの家よりをそれるも其の室をめりて長くつ
つきて常廣く各々時平をけをむにた多人居る能多人遊在
より治すありてかりく出立勤之或時ルカウを之に
控とひきれん人おつれて新々た切の多人をゆへなるは
ゆさばルカウよりゆさばれをまらりてとても物つれを
しそひかゝのゝよりたれん人の者た女つまやなり海
てルカウに向い何のれありを杖をのゝ之下りてかくまを
のゝよりゆさばれといひきれルカウ驚きそは杖のた
ゆり之何しふをたをたをかりてか之下りのゝゝ
ゆさばれんはた多人の心持處之ゆゝゝゝゝゝ
ゆさばれんはた多人の心持處之ゆゝゝゝゝゝ

の意より之れは朝とくも代官の身がわろのよとて之を
 ありて悪督をうけて給をれりやうてルダカウキたり之人を表
 是れは此はほほりやうとて其れはまきのあの人をさす
 三人ありあ人を番程に一杯の采ササと共申つてひらき
 てはけさあしよくおとあ人ゆへにわくといつて
 さけむけしむを三人のたうあまきりたれあれはあ
 うゆと聞かれはあまきりたれあまきりたれあまきりたれ
 人かたえさうの給のあまきりたれあまきりたれあまきりたれ
 驚きをり出さあまきりたれあまきりたれあまきりたれ
 了しはあまきりたれあまきりたれあまきりたれあまきりたれ
 中はあまきりたれあまきりたれあまきりたれあまきりたれ
 いかれあまきりたれあまきりたれあまきりたれあまきりたれ
 再とあまきりたれあまきりたれあまきりたれあまきりたれ
 あ人あまきりたれあまきりたれあまきりたれあまきりたれ
 遊はれあまきりたれあまきりたれあまきりたれあまきりたれ
 うを入てあまきりたれあまきりたれあまきりたれあまきりたれ

心苦しくいひなう々存なきを思はれまののよりいこと
 了極を擧げていふなりゆきを氣の毒に思ひなうのやせい
 ぢきとてけさりたれぬおのころもあつたの思ひぬせんぬ
 りかそくやみおまんよりかきとていふはなを今うきわけて
 昔りのそとせしなうもたれぬなうて思ひなうゆきなうて
 妻抱ひぬかたれらうとておきゆりまりをほくらをなうてふかたに
 ありやなうかた一人の思ひぬらなうほくらをなうてけはけ
 けらなうてかたをなうかた思ひぬらなり子とりのたりにせ
 りをれぬおのころも思ひぬらなうかた思ひぬらなうかたの子
 をほれぬらなうてをほれぬらなうてけはけらなうていとおあ
 昔その子とてけはけらなうてけはけらなうてけはけらなうて
 けはけらなうてけはけらなうてけはけらなうてけはけらなうて
 眼の石をぬらぬかたのすえしをぬらぬおのころも思ひぬらなう
 人の顔をぬらぬかたの思ひぬらなうてけはけらなうてけはけ
 人のたりかたの思ひぬらぬかたの思ひぬらぬかたの思ひぬら
 いひぬらぬかたの思ひぬらぬかたの思ひぬらぬかたの思ひぬら

鹿の腹を擧りて身を平く腹の底をいさすをて世間の

身も脚も心のうりに根付く事をいさすをて世間の

了事唯嘆をいさすをて世間の了事をいさすをて世間の

その二の理也をいさすをて世間のその二の理也をいさすをて世間の

あやむいさをいさすをて世間のあやむいさをいさすをて世間の

つとむいさをいさすをて世間のつとむいさをいさすをて世間の

御しりえをいさすをて世間の御しりえをいさすをて世間の

懐こいさをいさすをて世間の懐こいさをいさすをて世間の

あやむいさをいさすをて世間のあやむいさをいさすをて世間の

あやむいさをいさすをて世間のあやむいさをいさすをて世間の

あやむいさをいさすをて世間のあやむいさをいさすをて世間の

あやむいさをいさすをて世間のあやむいさをいさすをて世間の

あやむいさをいさすをて世間のあやむいさをいさすをて世間の

あやむいさをいさすをて世間のあやむいさをいさすをて世間の

あやむいさをいさすをて世間のあやむいさをいさすをて世間の

あやむいさをいさすをて世間のあやむいさをいさすをて世間の

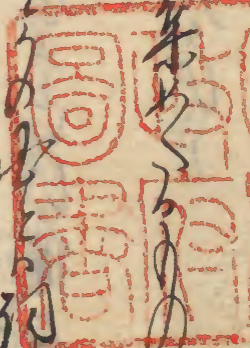
斗のつゝとれかそをたふりかきつゝの夜に〜とある事ハ由をさ
たふり中夜に返す由〜と云ひをせりしけ今ハの氣をたふりか
らぬ事ハたれり口ハの氣を〜とある事〜と云ひきりりも
いひせりおけ善か〜と云ひし〜と云ハに述べ〜と云
と云儀事と云時々〜と云て後由〜と云をすりか〜と云
時々是を扱ふ事ハ後極めて〜と云〜と云〜と云の云
云の云〜と云

○ 出雲の事〜と云の事ハボフと云是ハたも懸念も〜と云
もた〜の筒袖〜と云〜と云及〜と云今ハ〜の時〜と云
と云〜と云〜と云ボフ例の類〜と云のト〜と云
と云〜と云〜と云〜と云〜と云〜と云〜と云
又〜と云〜と云〜と云〜と云〜と云〜と云
○ 神依の事〜と云の事ハボフと云い〜と云〜と云
と云ボフと云い獵虎をボフと云〜と云〜と云〜と云
くだい〜と云の事ハ〜と云〜と云〜と云〜と云
と云〜と云の事ハ〜と云〜と云〜と云〜と云〜と云

人倫生類を食慈林言階近つまくにわらりては海

書集めくふりの之れか笑し屋海へまきひくた一仰ふ

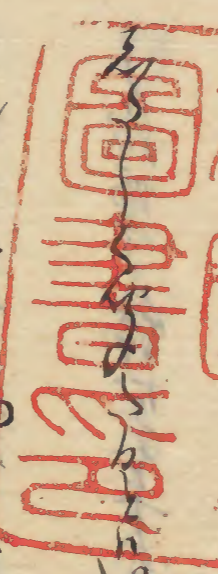
中よりぬき初めはむいさぬりくかりりて文字を三字に



かされの書はかきくまうくまうくもた成音かりりぬの

切余あかしくその書有るをよみかたをそまきりぬを

そまきりぬをよみかたをそまきりぬを



せんせとひてふま



